

スポーツ健康学研究所

【2024 年度大学評価総評】

スポーツ健康学研究所の自己点検・評価はおおむね適切に実施されている。4.5の②「修了生アンケートの結果の組織的活用」に関しては、アンケート結果について自己点検・評価シートでコメントをしており、今後研究科全体で議論がなされることを期待する。また、5.1④「入学者選抜にあたっての志願者に対する配慮」については、特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みの整備と入試要項への記載などを検討しており、改善が期待される。

中期目標・年度目標達成状況報告書の学習成果の検証に関して、アンケート実施結果の分析からおおむね良好な結果を得ていることは評価に値するが、授業外学習時間が短い学生が一定割合存在しており、改善の余地があると思われる。また、学会参加への動機付けを行ってきたにもかかわらず、学会発表数が院生数の半分に満たない現状にあることから、研究科として学会発表への具体的な支援策を検討するなど、積極的な参加奨励が必要であろう。海外での学会発表は学生にとっても貴重な経験となり、他国の研究者との交流が海外志向により影響を及ぼすこともあることから、大学院生の国際会議への積極的な参加なども検討すべきと思われる。社会人学生が参加しやすいように授業曜日時限を調整したり、論文等の発表会を土曜日に設定したり、社会人学生同士の交流の場を提供したりするなど、社会人学生の学習環境に配慮している点は評価できる。

大学基準協会の第4期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究科（専攻）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究科（専攻）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学大学院学則 別表V ・ホームページ (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/mokuhyo/daigaku_in/) ・2024 年度大学院要項 スポーツ健康学研究所 	

基準2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究科において、研究科長及び教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究科において質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
・スポーツ健康学研究所教授会規定	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/) ・ ホームページ (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/) ・ 2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 ・ 2024年度スポーツ健康学研究科 シラバス (https://info.hosei-kyoiku.jp/syllabus/) ・ スポーツ健康学研究科カリキュラムツリー、カリキュラムマップ (https://www.hosei.ac.jp/application/files/3815/7440/8993/2017_curriculum_tree_map.pdf) 	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④単位の实质化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る	はい

措置を行っていますか。	
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
4.3⑦研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
4.3⑧研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 ・2024年度スポーツ健康学研究科 シラバス (https://info.hosei-kyoiku.jp/syllabus/) ・2024年度新入生ガイダンス配布資料 ・2023年度修士課程修了生アンケート 	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
4.4⑥学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑦ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 ・ホームページ https://www.hosei.ac.jp/application/files/8316/0757/7915/2020_sports_gakui.pdf	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	いいえ
【具体的な活用事例】	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学研究科教授会において授業改善アンケートの実施結果を公開し、本研究科の理解度・満足度は学部よりも高評価であり、少人数対応の効果であることが示された。（2023年度第6回研究科教授会議事録） 	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①修士課程・博士課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整	いいえ

備していますか。	
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 ・2024年スポーツ健康学研究科入学試験要項 ・ホームページ (https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/)	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度第1回研究科長会議資料 ・ホームページ(https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/daigakuin/) 	

表1

研究科・専攻における収容定員充足率	修士課程	0.50以上2.00未満
	博士課程	0.33以上2.00未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①研究科の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学研究科教授会規定 ・2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学研究科教授会規定 ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準（内規） ・スポーツ健康学部教授・准教授への昇格に関する基準（内規） ・法政大学スポーツ健康学研究科（修士課程）における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ ・法政大学スポーツ健康学研究科（博士後期課程）における研究指導担当資格審査基準に関する申し合わせ 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 ・2024年度新入生ガイダンス配布資料 ・2024年度スポーツ健康学研究科 シラバス (https://info.hosei-kyoiku.jp/syllabus/) ・履修登録不備者への対応に係る根拠資料 	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 ・2024年度新入生ガイダンス配布資料 ・研究倫理委員会要綱（内規） ・研究倫理eラーニングコース（eL Core）修了証書 	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度大学院要項 スポーツ健康学研究科 	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
4 教育・学習	4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
現状では修了生アンケートの結果を個別に活用している事例はあっても組織的には活用できていない。今後は修了生アンケートを教授会で報告するとともに、研究科全体で取り組むための議論を行う。	
大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
5 学生の受け入れ	5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。

【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。

現状では入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているとは言い難い。スポーツ健康学研究科ホームページや入学試験要項に記載するように対応する。

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023 年度大学評価結果総評】（参考）

スポーツ健康学研究科の自己点検・評価は適切に実施されている。2022 年度には修士修了生 11 名のうち、6 名が関連する専門領域に進んだとあり、2016 年以來の取り組みがここに結実していることがわかる。2021 年に設置された博士後期課程が 2023 年度で完成年度を迎える。この段階で教育内容に関する在学生からの「授業改善アンケート」を詳細に検討するという 2023 年度の年度目標は、組織的な FD 活動の改善として妥当なものといえる。また、研究科開設時に文科省からの指摘があった教員の年齢構成が高齢化している点について、教員組織の充実を掲げている点は重要である。修士課程の留学生対応、博士後期課程の社会人対応を学生支援の項目として掲げており、適切である。特に、社会人への対応として、既に行っているオンラインでの研究指導に加えて、市ヶ谷でも対面での研究指導を検討している点は評価できる。本研究科では、修士・博士ともに収容定員に対する在籍学生数比率は基準を満たしているが、今後のニーズとして、こうした対応が明確に示されるならば、さらに収容定員充足率を上げることも可能であろう。

教育課程・学習成果（教育方法に関すること）の中期目標である②海外への志向をより高められる教育方法の実践として、2021 年度に引き続き、2022 年度においても招聘研究者による講演会を実施している点は評価に値する。院生たちの視野を広げると同時に、今後の活躍の場をグローバルに広げる上で、こうした試みは継続されることが求められよう。開催時期については、検討することであり、多くの学生の参加が期待される。学習成果の可視化については、柔軟な解釈により幾つか指標を設けることはさほど困難ではないと考えられるので、今後検討されたい。

今後の課題として、前述のとおり、教員構成をどのように見直していくのか。2023 年度は 2 名の定年退職者が予定されており、年齢構成の若返りが図られるものと考えられる。

【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

内部質保証の年度目標に研究環境の改善を掲げ、春学期と秋学期終了時の 2 回、質保証委員会を開催し、学修成果の可視化や大学院教育・研究に関する評価や改善点が議論された。今後も継続していきたい。授業改善アンケートの積極的活用として、修士課程の「研究デザイン・フィロソフィー」および博士後期課程の「スポーツ健康学特論Ⅰ～Ⅲ」の評価を行った結果、「授業内容の理解」では、「理解できた」寄りの評価が 92.9%、「授業履修の満足度」では、「よかった」寄りの評価が 89.3%と高い評価が得られた。修了生アンケートの活用では「専門的知識とその応用力」、「専門以外の領域における、自身の専攻分野に関わる幅広い知識と教養」、「研究課題を発見し、自力で調査、研究する能力」を身につけられたかという問いに、「そう思う」あるいは「いくらかそう思う」と答えた割合は 87.5%、87.5%、100%と、2021 年度より高い値であった。

さらに金曜日 5 限を活用して「博士課程合同セミナー」を定期的に開催し、社会人の多い博士課程大学院生どうしの交流および修士課程の大学院生との交流を深め、情報交換や学内コミュニケーションの場が提供された。入学者数も修士課程は 90%、博士後期課程は 100%とほぼ定員に達した。課題として挙げられていた教員構成については、博士後期課程の研究指導教員 1 名、研究指導補助教員 1 名を増員できた。定年退職となった教員 2 名を新規採用教員で補充でき年齢構成の若返りを図ることができた。さらに博士後期課程の研究指導教員 1 名を新規採用教員で補充できた。

社会貢献・社会連携課題として掲げている研究活動の発信（院生の学会発表数増加）の部分では院生の学会発表数は増加することができず課題が残る結果となった。次年度も継続して院生の学会活動を奨励して、学会発表を増加させるように促していきたい。

2 各基準の改善・向上

基準 4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5③学習成果を測定するために設定した指標は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
---	--	----------------------

<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>4.5④学習成果を測定するために設定した指標に基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<p>4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<p>5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげています</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>

か。	困難とする要因がある。	
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につな
げていること。

6.3①研究科内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②研究科内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに組み込んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	修士課程では「高度専門的職業人の養成」を掲げる。博士後期課程では「高度専門的職業人を支援できる研究者の養成」を掲げる。	
年度目標	—	
達成指標	—	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	—
	理由	—
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	—
改善のための提言	—	
評価基準	内部質保証	
中期目標	研究活動をより活発化させるために質保証委員会を機能させる。	
年度目標	研究環境の改善を図る。	
達成指標	質保証委員と研究環境の改善に関わる情報を交換する。	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
理由	春および秋学期終了時の2回、質保証委員会を実施し、学修成果の可視化、特色ある教育・研究プログラム経費の活用、入試内容など大学院の教育・研究に関する情報交換ができたため。	

報告	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	中期目標に準じて質保証委員会を複数回開催し、関係者間で意見を交わせたことは評価できる。
	改善のための提言	今後は「研究環境の改善を図る」ため、何を指標に質保証委員会を機能させるのか明確にすることが望まれる。
評価基準		教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標		修士課程、博士後期課程の理念・目的に対応する教育内容であるかを検証する。博士後期課程については完成年度の2023年度以降に新カリキュラム策定を目指す。
年度目標		修士課程について、2021年度からの新カリキュラムの教育内容、特に「基礎科目」における幅広い知識と専門性の学修を継続して検証する。
達成指標		「基礎科目」である「研究デザイン・フィロソフィー」および「スポーツ健康学特論Ⅰ～Ⅲ」に対する学生の意見を「授業改善アンケート」等で検証する。「授業改善アンケート」では「授業内容の理解」「授業履修の満足度」で検証する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	授業科目ごとのアンケート結果（5段階評価）は得られなかったが、修士課程9名の大学院生から「授業内容の理解」では、「理解できた」寄りの5,4評価が26/28=92.9%、「授業履修の満足度」では、「よかった」寄りの5,4評価が25/28=89.3%であったため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	授業改善アンケートの結果を見る限り、「基礎科目」である「研究デザイン・フィロソフィー」「スポーツ健康学特論Ⅰ～Ⅲ」に対する学生の授業内容の理解度および授業履修の満足度は高評価を得ており、各授業で扱う教育内容は適切であると考えられる。
	改善のための提言	2023年度をもって博士後期課程が完成年度をむかえたため、次年度以降は新カリキュラム策定を視野に入れた検証を行ってほしい。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		①修士課程、博士後期課程の理念・目的に対応する教育方法であるかについて検証する。
年度目標		オムニバス形式で実施している修士課程の「研究デザイン・フィロソフィー」、博士後期課程の「スポーツ健康学高度開発特論A～C」の効果を検証する。 学外への実習期間をもつ博士後期課程の「スポーツ健康学高度開発演習」の効果を検証する。
達成指標		授業担当教員にインタビューをする。 「授業改善アンケート」の「授業での工夫」「授業外学習時間」「授業履修の満足度」で検証する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	授業担当教員から、オムニバス形式の「研究デザイン・フィロソフィー」では教員が行っている研究領域に対する大院生全体の反応を把握できる、「スポーツ健康学高度開発特論」では領域ごとの研究内容を深められる、また実習期間をもつ「スポーツ健康学高度開発特論」では実体験を通じて研究内容を改めて認識・検討できる、といずれも高評価の声が聞かれたため。また、「授業改善アンケート」によると、「授業での工夫」では、「工夫していた」寄りの5,4評価が25/28=89.3%、「授業履修の満足度」では、「よかった」寄りの5,4評価が25/28=89.3%と高評価、また「授業外学習時間」では「週1時間以上」が18/29=62.1%と適度な時間の評価が得られたため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	

	所見	「研究デザイン・フィロソフィー」「スポーツ健康学高度開発特論」「スポーツ健康学高度開発演習」の教育方法について、担当教員へのインタビューと授業改善アンケートを用いて検証した結果は、いずれも高評価であり、各教員が実践する教育方法は適切であると評価できる。
	改善のための提言	「授業外学習時間」では「週1時間以上」が18/29=62.1%と適度な評価が得られているが、更なる高評価が得られるような取り組みを期待する。
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		②海外への志向をより高められる教育方法を実践する。
年度目標		2022年度に続き、海外からの招聘研究者による講演会を実施する。
達成指標		講演会の実施
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	大学院生の参加を促すために秋学期期間中の金曜日5限を使って実施した。10月27日にスポーツマネジメント領域、11月24日にスポーツコーチング領域の内容で実施し、それぞれに大学院生15名程度の参加が得られたため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	前年度に引き続き国際的に活躍する研究者の講演会が実施されたことは評価できる。ハイブリッド形式での開催により、教員—大学院生、大学院生間での交流が可能となった点は高く評価できる。
	改善のための提言	今後も学外講師を招聘するかたちでの講演会を継続し、国際的な視点からの研究教育・連携が進むことを期待される。あわせて、より多くの大学院生、教員が参加できる開催時期、日時、講演者、講演内容の検討が必要である。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		理念・目的を達成する学習成果となっているかを検証するための方法を設定する。
年度目標		大学評価室による2022年度大学院修士課程修了生アンケートを用いて検証する。高度専門的職業人の育成を確認する。
達成指標		2021年度アンケートとの比較 修士課程修了後の進路調査
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	修了生アンケートの「専門的知識とその応用力」、「専門以外の領域における、自身の専攻分野に関わる幅広い知識と教養」、「研究課題を発見し、自力で調査、研究する能力」を身につけられたかという問いに、「そう思う」あるいは「いくらかそう思う」と答えた割合はそれぞれ7/8、7/8、8/8と、2021年度よりさらに高成果であったため。また、10名の修士課程修了者のうち、関連の専門職へ5名、スポーツ健康学研究科後期博士過程へ3名が進んだため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	修了生アンケートを比較した結果は、前年度以上の高評価を示している。また、関連の専門職へ5名の修了生が就き、博士後期過程へ3名が進学していることを踏まえると、研究科が開講する各授業は適切に運営されており、高い学習成果をあげたと考えられる。
	改善のための提言	2023年度で博士後期課程が完成年度をむかえたため、今後は博士後期課程修了者の進路や動向に注目したい。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		着実に入学定員を確保していく。
年度目標		修士課程、博士後期課程ともに入学者/入学定員=1を目指す。

達成指標	入学者/入学定員	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2024年度の修士課程入学者は9名/定員10名=0.9、博士後期課程入学者は4名/定員4名=1.0となり、入学者/入学定員=1をほぼ満たしたため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	修士課程については、定員に満たなかったものの、当初の目標をほぼ達成できており、妥当な評価であると言える。
	改善のための提言	応募者が募集（入学）定員を超えたとしても、諸事情により入学者数は流動するため、今後いかに応募者数を確保するか検討を重ねられたい。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	①修士課程（2016年度開設）において、さらに教育研究指導体制を充実する。	
年度目標	教員採用の主体である学部と連携して、領域間でバランスのとれた教育研究指導体制を目指す。	
達成指標	領域ごとの教員数/院生数の検討	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	2023年度の修士課程ではこの指標のバランスがとれていたが、2024年度はヘルスプロモーション=9/9=1.0、スポーツコーチング=8/1=8.0、スポーツマネジメント=4/6≒0.7とアンバランスになる。しかし、これは大学院生数の偏りによる結果であり、定員10名からみた教員数としては各領域に4名以上は確保されているため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	入学者の専攻は、年度毎に傾向が変わるため、各領域の学生に対する教員配置比率にばらつきが生じることは避けられない面もある。一方、各領域に4名以上の教員を安定的に配置できていることは素晴らしい。
	改善のための提言	院生の専攻が多様性に富むことには、さまざまなメリットがあり、研究科のプレゼンスを高めることにつながる。院生の特徴と合わせて、教員側の多様性も確保していく取り組みが期待される。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	②博士後期課程（2021年度開設）において、さらに教育研究指導体制を充実する。	
年度目標	博士後期課程担当教員の増員を目指す。	
達成指標	博士後期課程担当教員数	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	博士後期課程の研究指導教員1名、研究指導補助教員1名を増員でき、さらに定年退職となる研究指導教員1名を新規採用教員で補充できたため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	次年度に向けて博士後期課程の研究指導教員2名、研究指導補助教員1名を増員できたことにより、研究科の指導体制がさらに充実したと言える。
	改善のための提言	博士後期課程の教育研究指導体制の更なる充実を期待します。
評価基準	学生支援	
中期目標	①外国人留学生に対する支援の充実	

年度目標	外国人留学生（修士課程1年3名、2年2名）にチューター制度を活用してもらい、学習・研究活動を支援する。	
達成指標	チューター制度の活用と指導教員による相談対応	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	5名の留学生のうち4名がチューター制度を活用し、特にトラブルは報告されていないため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	制度を整備するだけでなく、実際に運用して実装できていることは高く評価できる。
	改善のための提言	修了に至るまでの長期的かつ複数体制による支援の在り方についても検討されたい。
評価基準	学生支援	
中期目標	②社会人学生に対する支援の充実	
年度目標	社会人学生（博士後期課程2年4名、3年2名）の学習・研究活動を支援する。	
達成指標	授業担当教員による授業時間設定の支援と指導教員による相談対応	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	授業担当教員が社会人学生と調整して授業曜限を設定した。また博士論文の計画発表会、中間発表会、最終発表会を社会人大学院生を考慮して土曜日に開催した。さらに「博士課程合同セミナー」と称した会を金曜日の夕方に開き、社会人の多い博士課程大学院生どうしの交流および修士課程の大学院生との交流を深められたため。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	社会人学生の学びのため、研究科担当教員が授業や論文指導の曜日時限を柔軟に対応した点は高く評価できる。また、新たな取り組みとして開催したセミナーを平日夕方に設定したことで、社会人学生を含む学生間の交流が深められた点はきわめて高く評価できる。
	改善のための提言	オンライン、対面の利点を活用しつつ、教員と大学院生、大学院生同士の交流をさらに推進してもらいたい。
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	研究活動の発信によりプレゼンテーション、コミュニケーション能力を高め、社会との連携を深められるようにする。	
年度目標	国内外、対面・オンラインを問わず、学会での発表を促す。	
達成指標	学会発表数/院生数	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	2022年度はコロナ禍で10件の学会発表数であった。2023年度は対面での学会が増えたにもかかわらず、経費支援への申請があった学会発表数は12件であり、院生数33名の半数にも満たなかったため。
	改善策	研究の実施、学会発表、論文投稿という流れを大学院生にさらに周知する。また、学会発表のポスター等を掲示することで各大学院生の研究の進行を可視化する。
	所見	院生数あたりの学会発表数が半数にも満たなかったため、達成が不十分であったと評価せざるを得ない。

改善のための提言	指導教員のみならず、副指導教員が積極的に学会発表指導を行うことを期待する。あらためて、国内外の学会発表に必要な経費の補助があることを広く周知するとともに具体的な達成目標を設定することも望まれる。
<p>【重点目標】 研究環境の改善を図る。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質保証委員と研究環境の改善に関わる情報を交換する。 ・ 将来計画推進委員会（学習環境）に諮る。 ・ 院生にインタビューする。 ・ 他大学研究科の研究環境を調査する。 	
<p>【年度目標達成状況総括】 研究環境の改善を図ることを重点目標とした中で、大学院生の研究消耗品費、学会発表補助を特色ある教育・研究プログラム経費で、海外への動機づけを海外研究者による講演会で、大学院生どうしの交流を深めることを「博士課程合同セミナー」で、それぞれ実施してきた。それにもかかわらず学会発表数が停滞している。高度専門職を養成することを目指していても博士後期課程を設置した上は研究志向をさらに高める必要がある。</p>	

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	修士課程では「高度専門的職業人の養成」を掲げる。博士後期課程では「高度専門的職業人を支援できる研究者の養成」を掲げる。
年度目標	—
達成指標	—
評価基準	内部質保証
中期目標	研究活動をより活発化させるために質保証委員会を機能させる。
年度目標	研究環境の改善を図る。
達成指標	質保証委員と研究環境の改善に関わる情報を交換する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	修士課程、博士後期課程の理念・目的に対応する教育内容であるかを検証する。博士後期課程については完成年度の2023年度以降に新カリキュラム策定を目指す。
年度目標	博士後期課程について、新カリキュラムの検討を開始する。特に専門科目・演習科目について専門性の学修の観点から検証する。
達成指標	「専門科目」である「スポーツ健康学高度開発特論 A/B/C」および「演習科目」である「スポーツ健康学高度開発演習」に対する学生の意見を「授業改善アンケート」等で検証する。「授業改善アンケート」では「授業内容の理解」「授業履修の満足度」で検証する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	①修士課程、博士後期課程の理念・目的に対応する教育方法であるかについて検証する。
年度目標	研究指導科目である修士課程の「スポーツ健康学演習Ⅰ～Ⅳ」、博士後期課程の「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ～Ⅵ」の効果を検証する。
達成指標	授業担当教員にインタビューをする。「授業改善アンケート」の「授業での工夫」「授業外学習時間」「授業履修の満足度」で検証する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	②海外への志向をより高められる教育方法を実践する。
年度目標	2023年度に続き、海外からの招聘研究者による講演会を実施する。
達成指標	講演会を実施する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	理念・目的を達成する学習成果となっているかを検証するための方法を設定する。

年度目標	大学評価室による 2023 年度大学院修士課程修了生アンケートを用いて検証する。 高度専門的職業人および高度専門的職業人を支援できる研究者の育成を確認する。
達成指標	2022 年度アンケートとの比較 修士課程および博士課程修了後の進路調査
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	着実に入学定員を確保していく。
年度目標	修士課程、博士後期課程ともに入学者/入学定員 = 1 を目指す。
達成指標	入学者/入学定員
評価基準	教員・教員組織
中期目標	①修士課程（2016 年度開設）において、さらに教育研究指導體制を充実する。
年度目標	教員採用の主体である学部と連携して、領域間でバランスのとれた教育研究指導體制を目指す。
達成指標	領域ごとの教員数/院生数の検討
評価基準	教員・教員組織
中期目標	②博士後期課程（2021 年度開設）において、さらに教育研究指導體制を充実する。
年度目標	博士後期課程担当教員の増員を目指す。
達成指標	博士後期課程担当教員数
評価基準	学生支援
中期目標	①外国人留学生に対する支援の充実
年度目標	外国人留学生（修士課程 1 年 2 名、2 年 3 名）はチューター制度を必要に応じて活用することができ、学習・研究活動を支援する。
達成指標	チューター制度の活用と指導教員による相談対応
評価基準	学生支援
中期目標	②社会人学生に対する支援の充実
年度目標	社会人学生（博士後期課程 2 年 2 名、3 年 6 名）の学習・研究活動を支援する。
達成指標	授業担当教員による授業時間設定の支援と指導教員による相談対応
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	研究活動の発信によりプレゼンテーション、コミュニケーション能力を高め、社会との連携を深められるようにする。
年度目標	国内外を問わず、院生の学会の発表を促す。
達成指標	学会発表数/院生数
<p>【重点目標】 研究環境の改善を図る。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員と研究環境の改善に関わる情報を交換する。 ・院生にインタビューする。 ・他大学研究科の研究環境を調査する。 	